

改正後

改正前

（スプリンクラー設備を設置することを要しない構造）

第十二条の二 「略」

「一 略」

二 「略」

「イ〜ハ 略」

ハの開口部には、建築基準法施行令第百十二条第一項に規定する特定防火設備である防火戸（以下「特定防火設備である防火戸」という。）（廊下と階段とを区画する部分以外の開口部にあつては、防火シャッターを除く。）で、随時開くことができる自動閉鎖装置付きのもの若しくは次に定める構造のもの又は防火戸（防火シャッター以外のものであつて、二以上の異なつた経路により避難することができる部分の出入口以外の開口部で、直接外気に開放されている廊下、階段その他の通路に面し、かつ、その面積の合計が四平方メートル以内のものに設けるものに限る。）を設けたものであること。

〔イ・ロ 略〕

〔2・3 略〕

（スプリンクラー設備を設置することを要しない階の部分等）

第十三条 「略」

一 令別表第一(イ)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(ロ)項ロ並びに(ハ)項ロ及びハに掲げる防火対象物（同表(イ)項ロ及びハに掲げる防火対象物にあつては、有料老人ホーム、福祉ホーム、老人福祉法（昭和三十八年法律第百三十三号）第五条の二第六項に規定する認知症対応型老人共同生活援助事業を行う施設又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号）第五条第十七項に規定する共同生活援助を行う施設に限る。以下この号及び次号、第二十八条の二第一項第四号及び第四号の二並びに同条第二項第三号及び第三号の二において同じ。）の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次に定めるところにより、十階以下の階に存する同表(イ)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分に設置される区画を有するもの十階以下の階

「イ〜ホ 略」

の二 令別表第一(イ)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(ロ)項ロ及び(ハ)項ロ並びに(イ)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次に定めるところにより、十階以下の階に設置される区画を有するもの十階以下の階（同表(イ)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分の床面積の合計が三千平方メートル以上の防火対象物にあつては、当該部分が存する階を除く。）

イ 居室を耐火構造の壁及び床で区画したものであること。

（スプリンクラー設備を設置することを要しない構造）

第十二条の二 「同上」

「一 同上」

二 「同上」

「イ〜ハ 同上」

ハの開口部には、建築基準法施行令第百十二条第一項に規定する特定防火設備である防火戸（以下「特定防火設備である防火戸」という。）（廊下と階段とを区画する部分以外の開口部にあつては、防火シャッターを除く。）で、随時開くことができる自動閉鎖装置付きのもの若しくは次に定める構造のもの又は鉄製網入りガラス入り戸（二以上の異なつた経路により避難することができる部分の出入口以外の開口部で、直接外気に開放されている廊下、階段その他の通路に面し、かつ、その面積の合計が四平方メートル以内のものに設けるものに限る。）を設けたものであること。

〔イ・ロ 同上〕

〔2・3 同上〕

（スプリンクラー設備を設置することを要しない階の部分等）

第十三条 「同上」

一 令別表第一(イ)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(ロ)項ロ並びに(ハ)項ロ及びハに掲げる防火対象物（同表(イ)項ロ及びハに掲げる防火対象物にあつては、有料老人ホーム、福祉ホーム、老人福祉法（昭和三十八年法律第百三十三号）第五条の二第六項に規定する認知症対応型老人共同生活援助事業を行う施設又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号）第五条第十七項に規定する共同生活援助を行う施設に限る。以下この号、第二十八条の二第一項第四号及び同条第二項第三号において同じ。）の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次に定めるところにより、同表(イ)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分に設置される区画を有するもの十階以下の階

「イ〜ホ 同上」

〔新設〕

ロ 壁及び天井（天井のない場合にあつては、屋根）の室内に面する部分（回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。）の仕上げを地上に通ずる主たる廊下その他の通路にあつては準不燃材料で、その他の部分にあつては難燃材料としたものであること。

ハ 区画する壁及び床の開口部の面積の合計が八平方メートル以下であり、かつ、一の開口部の面積が四平方メートル以下であること。

ニ ハの開口部には、特定防火設備である防火戸（廊下と階段とを区画する部分以外の部分の開口部にあつては、防火シャッターを除く。）で、随時開くことができる自動閉鎖装置付きのもの若しくは次に定める構造のもの又は防火戸（防火シャッター以外のものであつて、二以上の異なつた経路により避難することができる部分の出入口以外の開口部で、直接外気に開放されている廊下、階段その他の通路に面し、かつ、その面積の合計が四平方メートル以内のものに設けるものに限る。）を設けたものであること。

イ 随時閉鎖することができ、かつ、煙感知器の作動と連動して閉鎖すること。

ロ 居室から地上に通ずる主たる廊下、階段その他の通路に設けるものにあつては、直接手で開くことができ、かつ、自動的に閉鎖する部分を有し、その部分の幅、高さ及び下端の床面からの高さが、それぞれ、七十五センチメートル以上、一・八メートル以上及び十五センチメートル以下であること。

ホ 令別表第一(四)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる用途に供する各独立部分（構造上区分された数個の部分の各部分で独立して当該用途に供されることができものをいう。）の床面積がいずれも百平方メートル以下であること。

〔二〕略

〔一〕略

イ・ロ 略

ハ ロの開口部には、特定防火設備である防火戸（廊下と階段とを区画する部分以外の部分の開口部にあつては、防火シャッターを除く。）で、随時開くことができる自動閉鎖装置付きのもの若しくは次に定める構造のもの又は防火戸（防火シャッター以外のものであつて、二以上の異なつた経路により避難することができる部分の出入口以外の開口部で、直接外気に開放されている廊下、階段その他の通路に面し、かつ、その面積の合計が四平方メートル以内のものに設けるものに限る。）を設けたものであること。

〔イ〕・〔ロ〕 略

〔二〕略

〔一〕略

〔三〕略

〔自動火災報知設備の感知器等〕

第二十三条 〔略〕

〔二〕略

3 令第二十一条第三項の総務省令で定める閉鎖型スプリンクラーヘッドは、閉鎖型スプリンク

〔一〕同上

〔同上〕

〔同上〕

イ・ロ 同上

ハ ロの開口部には、特定防火設備である防火戸（廊下と階段とを区画する部分以外の部分の開口部にあつては、防火シャッターを除く。）で、随時開くことができる自動閉鎖装置付きのもの若しくは次に定める構造のもの又は鉄製網入りガラス入り戸（二以上の異なつた経路により避難することができる部分の出入口以外の開口部で、直接外気に開放されている廊下、階段その他の通路に面し、かつ、その面積の合計が四平方メートル以内のものに設けるものに限る。）を設けたものであること。

〔イ〕・〔ロ〕 同上

〔二〕同上

〔一〕同上

〔三〕同上

〔自動火災報知設備の感知器等〕

第二十三条 〔同上〕

〔二〕同上

3 令第二十一条第三項の総務省令で定める閉鎖型スプリンクラーヘッドは、標示温度が七十五

ラーヘッドの技術上の規格を定める省令第十二条に規定する式により算出される時間以内で作動するものでなければならない。

〔4〕9 略

(避難器具の設置個数の減免)

第二十六条 〔略〕

〔2〕3 略

4 〔略〕

〔1〕略

二 屋上広場に面する窓及び出入口に防火戸が設けられているもので、かつ、当該出入口から避難橋に至る経路は、避難上支障がないものであること。

〔三〕略

5 〔略〕

一 〔略〕

イ 〔略〕

ロ 開口部に防火戸を設ける耐火構造の壁又は床で区画されていること。

〔ハ〕へ 略

〔一〕三 略

〔6〕略

7 〔略〕

〔一〕略

二 屋上広場に面する窓及び出入口に、防火戸が設けられていること。

〔三〕略

(誘導灯及び誘導標識を設置することを要しない防火対象物又はその部分)

第二十八条の二 〔略〕

〔一〕三 略

四 前三号に掲げるもののほか、令別表第一(イ)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(四)項ロ並びに(内)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次のイからホまでに定めるところにより、十階以下の階に存する同表(内)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分に設置される区画を有するものの同表(内)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分が存する階以外の階(地階、無窓階及び十一階以上の階を除く。)

〔イ〕ホ 略

四の二 前各号に掲げるもののほか、令別表第一(イ)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(五)項イ及びロ並びに(内)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次のイからホまでに定めるところにより、十階以下の階に設置される区画を有す

度以下で作動時間が六十秒以内のものとする。

〔4〕9 同上

(避難器具の設置個数の減免)

第二十六条 〔同上〕

〔2〕3 同上

4 〔同上〕

〔1〕同上

二 屋上広場に面する窓及び出入口に特定防火設備である防火戸又は鉄製網入りガラス入り戸が設けられているもので、かつ、当該出入口から避難橋に至る経路は、避難上支障がないものであること。

〔三〕同上

5 〔同上〕

一 〔同上〕

イ 〔同上〕

ロ 開口部に特定防火設備である防火戸又は鉄製網入りガラス入りの戸を設ける耐火構造の壁又は床で区画されていること。

〔ハ〕へ 同上

〔一〕三 同上

〔6〕同上

7 〔同上〕

〔一〕同上

二 屋上広場に面する窓及び出入口に、特定防火設備である防火戸又は鉄製網入りガラス入りの戸が設けられていること。

〔三〕同上

(誘導灯及び誘導標識を設置することを要しない防火対象物又はその部分)

第二十八条の二 〔同上〕

〔一〕三 同上

四 前三号に掲げるもののほか、令別表第一(イ)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(四)項ロ並びに(内)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次のイからホまでに定めるところにより、同表(内)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分に設置される区画を有するものの同表(内)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分以外の部分(地階、無窓階及び十一階以上の階の部分を除く。)

〔イ〕ホ 同上

〔新設〕

るものの同表(五)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分が存する階以外の階(地階、無窓階及び十一階以上の階を除く。)

イ 居室を耐火構造の壁及び床で区画したものであること。

ロ 壁及び天井(天井のない場合にあっては、屋根)の室内に面する部分(回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。)の仕上げを地上に通ずる主たる廊下その他の通路にあつては準不燃材料で、その他の部分にあつては難燃材料としたものであること。

ハ 区画する壁及び床の開口部の面積の合計が八平方メートル以下であり、かつ、一の開口部の面積が四平方メートル以下であること。

ニ ハの開口部には、特定防火設備である防火戸(廊下と階段とを区画する部分以外の部分の開口部にあつては、防火シャッターを除く。)で、随時開くことができる自動閉鎖装置付きのもの若しくは次に定める構造のもの又は防火戸(防火シャッター以外のものであつて、二以上の異なつた経路により避難することができる部分の出入口以外の開口部で、直接外気に開放されている廊下、階段その他の通路に面し、かつ、その面積の合計が四平方メートル以内のものに設けるものに限る。)を設けたものであること。

(イ) 随時閉鎖することができ、かつ、煙感知器の作動と連動して閉鎖すること。

(ロ) 居室から地上に通ずる主たる廊下、階段その他の通路に設けるものにあつては、直接手で開くことができ、かつ、自動的に閉鎖する部分を有し、その部分の幅、高さ及び下端の床面からの高さが、それぞれ、七十五センチメートル以上、一・八メートル以上及び十五センチメートル以下であること。

ホ 令別表第一(五)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分の主たる出入口が、直接外気に開放され、かつ、当該部分における火災時に生ずる煙を有効に排出することができる廊下、階段その他の通路に面していること。

〔五〕 略

2

〔一・二〕 略

三 前二号に掲げるもののほか、令別表第一(五)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(五)項ロ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次のイからホまでに定めるところにより、十階以下の階に存する同表(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分に設置される区画を有するもの同表(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分が存する階以外の階(地階、無窓階及び十一階以上の階を除く。)

〔イ〜ホ〕 略

三の二 前各号に掲げるもののほか、令別表第一(五)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(五)項イ及びロ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次のイからホまでに定めるところにより、十階以下の階に設置される区画を有するものの同表(五)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分が存する階以外の階(地階、無窓階及び十一階以上の階を除く。)

〔五〕 同上

2

〔同上〕

〔一・二〕 同上

三 前二号に掲げるもののほか、令別表第一(五)項イに掲げる防火対象物のうち、同表(五)項ロ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、次のイからホまでに定めるところにより、同表(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分に設置される区画を有するもの同表(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分以外の部分(地階、無窓階及び十一階以上の階の部分を除く。)

〔イ〜ホ〕 同上

〔新設〕

イ 居室を耐火構造の壁及び床で区画したものであること。

ロ 壁及び天井（天井のない場合にあつては、屋根）の室内に面する部分（回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。）の仕上げを地上に通ずる主たる廊下その他の通路にあつては準不燃材料で、その他の部分にあつては難燃材料としたものであること。

ハ 区画する壁及び床の開口部の面積の合計が八平方メートル以下であり、かつ、一の開口部の面積が四平方メートル以下であること。

ニ ハの開口部には、特定防火設備である防火戸（廊下と階段とを区画する部分以外の部分の開口部にあつては、防火シャッターを除く。）で、随時開くことができる自動閉鎖装置付きのもの若しくは次に定める構造のもの又は防火戸（防火シャッター以外のものであつて、二以上の異なつた経路により避難することができる部分の出入口以外の開口部で、直接外気に開放されている廊下、階段その他の通路に面し、かつ、その面積の合計が四平方メートル以内のものに設けるものに限る。）を設けたものであること。

イ 随時閉鎖することができ、かつ、煙感知器の作動と連動して閉鎖すること。

ロ 居室から地上に通ずる主たる廊下、階段その他の通路に設けるものにあつては、直接手で開くことができ、かつ、自動的に閉鎖する部分を有し、その部分の幅、高さ及び下端の床面からの高さが、それぞれ、七十五センチメートル以上、一・八メートル以上及び十五センチメートル以下であること。

ホ 令別表第一(五)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分の主たる出入口が、直接外気に開放され、かつ、当該部分における火災時に生ずる煙を有効に排出することができる廊下、階段その他の通路に面していること。

〔3 略〕

（連結送水管に関する基準の細目）

第三十一条 〔略〕

〔一〇四の二 略〕

五 〔略〕

〔イ 略〕

ロ 日本工業規格G三三四二、G三三四八、G三四五二、G三五四四若しくはG三四九九に適合する管又はこれらと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有する管を使用すること。ただし、配管の設計送水圧力（ノズルの先端における放水圧力が〇・六メガパスカル（フオグガン等を使用するものとして消防長又は消防署長が指定する防火対象物にあつては、当該フオグガン等が有効に機能する放水圧力として消防長又は消防署長が指定する放水圧力とする。）以上となるように送水した場合における送水口における圧力をいう。以下この号において同じ。）が一メガパスカルを超える場合には、日本工業規格G三三四八

に適合する管、G三四五四に適合する管のうち呼び厚さでスケジュール四十以上のもの若しくはG三四九九に適合する管のうち呼び厚さでスケジュール十以上のものに適合するもの又はこれらと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有する管を用いなければならない。

ハ 管継手は、次の表の上欄に掲げる種類に従い、それぞれ同表の下欄に定める日本工業規

〔3 同上〕

（連結送水管に関する基準の細目）

第三十一条 〔同上〕

〔一〇四の二 同上〕

五 〔同上〕

〔イ 同上〕

ロ 日本工業規格G三三四二、G三三四八、G三四五二、G三五四四若しくはG三四九九に適合する管又はこれらと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有する管を使用すること。ただし、配管の設計送水圧力（ノズルの先端における放水圧力が〇・六メガパスカル（フオグガン等を使用するものとして消防長又は消防署長が指定する防火対象物にあつては、当該フオグガン等が有効に機能する放水圧力として消防長又は消防署長が指定する放水圧力とする。）以上となるように送水した場合における送水口における圧力をいう。以下この号において同じ。）が一メガパスカルを超える場合には、日本工業規格G三三四八

若しくはG三四五四に適合する管のうち呼び厚さでスケジュール四十以上のもの若しくはG三四九九に適合する管のうち呼び厚さでスケジュール十以上のものに適合するもの又はこれらと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有する管を用いなければならない。

ハ 管継手は、次の表の上欄に掲げる種類に従い、それぞれ同表の下欄に定める日本工業規

格に適合し、又はこれと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有するものとして消防庁長官が定める基準に適合するものとする。ただし、配管の設計送水圧力が一メガパスカルを超える場合に用いる管継手は、次に掲げるものその他これらと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有する管継手を用いなければならない。

Ⅱ (イ) フランジ継手にあつては、日本工業規格 B 二二三九又は B 二二二〇に適合する管継手のうち呼び圧力十六 K 以上のものに適合するもの

(ロ) フランジ継手以外の継手にあつては、日本工業規格 B 二三〇九に適合するもの又は B 二三二二若しくは B 二三二三 (G 三四六八を材料とするものを除く。) に適合する管継手のうち呼び厚さでスケジュール四十以上 (材料に G 三四五九を用いるものにあつては呼び厚さでスケジュール十以上) のものに適合するもの

〔表 略〕

〔二〇チ 略〕

〔六〇十 略〕

格に適合し、又はこれと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有するものとして消防庁長官が定める基準に適合するものとする。ただし、配管の設計送水圧力が一メガパスカルを超える場合に用いる管継手には、フランジ継手にあつては日本工業規格 B 二二三九若しくは B 二二二〇に適合する管継手のうち呼び圧力十六 K 以上のものに適合するもの、フランジ継手以外の継手にあつては日本工業規格 B 二三二二若しくは B 二三二三 (G 三四六八を材料とするものを除く。) に適合する管継手のうち呼び厚さでスケジュール四十以上 (材料に G 三四五九を用いるものは、呼び厚さでスケジュール十以上) のものに適合するもの又はこれらと同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有する管継手を用いなければならない。

〔新設〕

〔表 同上〕

〔二〇チ 同上〕

〔六〇十 同上〕

改正後

改正前

（用語の意義）

第二条 この省令において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 特定共同住宅等 令別表第一(五)項ロに掲げる防火対象物及び同表(六)項イに掲げる防火対象物（同表(五)項イ及びロ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物（同表(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物にあつては、有料老人ホーム、福祉ホーム、老人福祉法（昭和三十八年法律第百三十三号）第五条の二第六項に規定する認知症対応型老人共同生活援助事業を行う施設又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号）第五条第十七項に規定する共同生活援助を行う施設に限る。以下同じ。）の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、同表(五)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供する各独立部分（構造上区分された数個の部分の各部分で独立して当該用途に供されることが出来るものをいう。以下同じ。）の床面積がいずれも百平方メートル以下であつて、同表(五)項ロに掲げる防火対象物の用途に供される部分の床面積の合計が、当該防火対象物の延べ面積の二分の一以上のものに限り、）であつて、火災の発生又は延焼のおそれが少ないものとして、その位置、構造及び設備について消防庁長官が定める基準に適合するものをいう。

一の二 住戸利用施設 特定共同住宅等の部分であつて、令別表第一(五)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供されるものをいう。

一の三 特定住戸利用施設 住戸利用施設のうち、次に掲げる部分で、消防法施行規則（昭和三十六年自治省令第六号。以下「規則」という。）第十二条の二第一項又は第三項に規定する構造を有するもの以外のものをいう。

〔イ・ロ 略〕

二 住戸等 特定共同住宅等の住戸（下宿の宿泊室、寄宿舎の寝室及び各独立部分で令別表第一(五)項イ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供されるものを含む。以下同じ。）、共用室、管理入室、倉庫、機械室その他これらに類する室をいう。

〔三〇十八 略〕

（必要とされる初期拡大抑制性能を有する消防の用に供する設備等に関する基準）

第三条 特定共同住宅等（住戸利用施設を除く。）において、火災の拡大を初期に抑制する性能（以下「初期拡大抑制性能」という。）を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる初期拡大抑制性能を主として有する消防の用に供する設備等は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防用設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等とする。

〔表 略一〕

2 住戸利用施設において、初期拡大抑制性能を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる初期拡大抑制性能を主として有する消防の用に供する設備

（用語の意義）

第二条 この省令において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 特定共同住宅等 令別表第一(五)項ロに掲げる防火対象物及び同表(六)項イに掲げる防火対象物（同表(五)項ロ並びに(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物（同表(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物にあつては、有料老人ホーム、福祉ホーム、老人福祉法（昭和三十八年法律第百三十三号）第五条の二第六項に規定する認知症対応型老人共同生活援助事業を行う施設又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号）第五条第十七項に規定する共同生活援助を行う施設に限る。以下同じ。）の用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、同表(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供する各独立部分（構造上区分された数個の部分の各部分で独立して住居その他の用途に供されることが出来るものをいう。以下同じ。）の床面積がいずれも百平方メートル以下であるものに限り、）であつて、火災の発生又は延焼のおそれが少ないものとして、その位置、構造及び設備について消防庁長官が定める基準に適合するものをいう。

一の二 福祉施設等 特定共同住宅等の部分であつて、令別表第一(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供されるものをいう。

一の三 特定福祉施設等 福祉施設等のうち、次に掲げる部分で、消防法施行規則（昭和三十六年自治省令第六号。以下「規則」という。）第十二条の二第一項又は第三項に規定する構造を有するもの以外のものをいう。

〔イ・ロ 同上〕

二 住戸等 特定共同住宅等の住戸（下宿の宿泊室、寄宿舎の寝室及び各独立部分で令別表第一(六)項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供されるものを含む。以下同じ。）、共用室、管理入室、倉庫、機械室その他これらに類する室をいう。

〔三〇十八 同上〕

（必要とされる初期拡大抑制性能を有する消防の用に供する設備等に関する基準）

第三条 特定共同住宅等（福祉施設等を除く。）において、火災の拡大を初期に抑制する性能（以下「初期拡大抑制性能」という。）を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる初期拡大抑制性能を主として有する消防の用に供する設備等は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防用設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等とする。

〔表 同上〕

2 福祉施設等において、初期拡大抑制性能を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる初期拡大抑制性能を主として有する消防の用に供する設備等

等は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防用設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性を有する消防の用に供する設備等とする。

は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防用設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性を有する消防の用に供する設備等とする。

[略]		[略]				[略]		
	[略]		[略]				[略]	
	[略]		[略]				[略]	
	[略]		[略]				[略]	
	[略]		[略]				[略]	

[同上]		[同上]				[同上]		
	[同上]		[同上]				[同上]	
	[同上]		[同上]				[同上]	
	[同上]		[同上]				[同上]	
	[同上]		[同上]				[同上]	

3 〔略〕 〔略〕 〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	
	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	
	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するもの及び十階以下の階に存する特定住戸利用施設に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するもの及び十階以下の階に存する特定住戸利用施設に設置するものに限る。）
	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	
	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	〔略〕	

3 〔同上〕 〔同上〕 〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	
	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	
	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するもの及び十階以下の階に存する特定福祉施設等に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するものに限る。）	動力消防ポンプ設備 屋外消火栓設備 自動火災報知設備 スプリンクラー設備 に設置するもの及び十階以下の階に存する特定福祉施設等に設置するものに限る。）
	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	
	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	〔同上〕	

イ 特定共同住宅等の十一階以上の階及び特定住戸利用施設（十階以下の階に存するものに限る。）に設置すること。

〔ロ〕チ 略〕

三 〔略〕

〔イ〕ホ 略〕

ヘ 住戸利用施設（令別表第一（六）項ロ及びハに掲げる防火対象物の用途に供される部分に限る。以下この項において同じ。）に設ける共同住宅用自動火災報知設備にあつては、住戸利用施設で発生した火災を、当該住戸利用施設の関係者（所有者又は管理者をいう。）又は当該関係者に雇用されている者（当該住戸利用施設で勤務している者に限る。）（以下「関係者等」という。）に、自動的に、かつ、有効に報知できる装置を設けること。

〔ト〕略〕

四 〔略〕

〔イ〕ハ 略〕

ニ 住戸利用施設に設ける住戸用自動火災報知設備にあつては、住戸利用施設で発生した火災を、当該住戸利用施設の関係者等に、自動的に、かつ、有効に報知できる装置を設けること。

〔ホ〕ヘ 略〕

4 〔略〕

一 〔略〕

イ 二方向避難・開放型特定共同住宅等（十一階以上の部分に限り、特定住戸利用施設を除く。）又は開放型特定共同住宅等（十一階以上十四階以下の部分に限り、特定住戸利用施設を除く。）において、住戸、共用室及び管理人室の壁並びに天井（天井がない場合にあつては、上階の床又は屋根）の室内に面する部分（回り縁、窓台等を除く。）の仕上げを準不燃材料とし、かつ、共用室と共用室以外の特定共同住宅等の部分（開放型廊下又は開放型階段に面する部分を除く。）を区画する壁に設けられる開口部（規則第十三条第二項第一号ロの基準に適合するものに限る。）に、特定防火設備である防火戸（規則第十三条第二項第一号ハの基準に適合するものに限る。）が設けられているとき。

ロ 十階以下の階に存する特定住戸利用施設を令第十二条第一項第一号に掲げる防火対象物とみなして同条第二項第三号の二の規定を適用した場合に設置することができる同号に規定する特定施設水道連結型スプリンクラー設備を当該特定住戸利用施設に同項に定める技術上の基準に従い、又は当該技術上の基準の例により設置したとき（当該特定住戸利用施設に限る。）。

二 住戸、共用室及び管理人室（住戸利用施設にあるものを除く。）に共同住宅用スプリンクラー設備を前項第二号に定める技術上の基準に従い、又は当該技術上の基準の例により設置したとき（当該設備の有効範囲内の部分に限る。） 共同住宅用自動火災報知設備又は住戸用自動火災報知設備

（必要とされる避難安全支援性能を有する消防の用に供する設備等に関する基準）

第四条 特定共同住宅等（住戸利用施設を除く。）において、火災時に安全に避難することを支援す

イ 特定共同住宅等の十一階以上の階及び特定福祉施設等（十階以下の階に存するものに限る。）に設置すること。

〔ロ〕チ 同上〕

三 〔同上〕

〔イ〕ホ 同上〕

ヘ 福祉施設等に設ける共同住宅用自動火災報知設備にあつては、福祉施設等で発生した火災を、当該福祉施設等の関係者（所有者又は管理者をいう。）又は当該関係者に雇用されている者（当該福祉施設等で勤務している者に限る。）（以下「関係者等」という。）に、自動的に、かつ、有効に報知できる装置を設けること。

〔ト〕同上〕

四 〔同上〕

〔イ〕ハ 同上〕

ニ 福祉施設等に設ける住戸用自動火災報知設備にあつては、福祉施設等で発生した火災を、当該福祉施設等の関係者等に、自動的に、かつ、有効に報知できる装置を設けること。

〔ホ〕ヘ 同上〕

4 〔同上〕

一 〔同上〕

イ 二方向避難・開放型特定共同住宅等（十一階以上の部分に限り、福祉施設等を除く。）又は開放型特定共同住宅等（十一階以上十四階以下の部分に限り、福祉施設等を除く。）において、住戸、共用室及び管理人室の壁並びに天井（天井がない場合にあつては、上階の床又は屋根）の室内に面する部分（回り縁、窓台等を除く。）の仕上げを準不燃材料とし、かつ、共用室と共用室以外の特定共同住宅等の部分（開放型廊下又は開放型階段に面する部分を除く。）を区画する壁に設けられる開口部（規則第十三条第二項第一号ロの基準に適合するものに限る。）に、特定防火設備である防火戸（規則第十三条第二項第一号ハの基準に適合するものに限る。）が設けられているとき。

ロ 十階以下の階に存する特定福祉施設等を令第十二条第一項第一号に掲げる防火対象物とみなして同条第二項第三号の二の規定を適用した場合に設置することができる同号に規定する特定施設水道連結型スプリンクラー設備を当該特定福祉施設等に同項に定める技術上の基準に従い、又は当該技術上の基準の例により設置したとき（当該特定福祉施設等に限る。）。

二 住戸、共用室及び管理人室（福祉施設等にあるものを除く。）に共同住宅用スプリンクラー設備を前項第二号に定める技術上の基準に従い、又は当該技術上の基準の例により設置したとき（当該設備の有効範囲内の部分に限る。） 共同住宅用自動火災報知設備又は住戸用自動火災報知設備

（必要とされる避難安全支援性能を有する消防の用に供する設備等に関する基準）

第四条 特定共同住宅等（福祉施設等を除く。）において、火災時に安全に避難することを支援す

<p>する性能（以下「避難安全支援性能」という。）を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる避難安全支援性能を主として有する消防の用に供する設備等は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等とする。</p> <p>〔表 略〕</p> <p>2 住戸利用施設において、避難安全支援性能を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる避難安全支援性能を主として有する消防の用に供する設備等は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防用設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等とする。</p> <p>〔表 略〕</p> <p>〔3・4 略〕</p> <p>5 住戸、共用室及び管理人室（住戸利用施設にあるものを除く。）に共同住宅用スプリンクラー設備を前条第三項第二号に定める技術上の基準に従い、又は当該技術上の基準の例により設置したときに限り、当該設備の有効範囲内の部分について、共同住宅用自動火災報知設備又は住戸用自動火災報知設備を設置しないことができる。</p>	<p>る性能（以下「避難安全支援性能」という。）を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる避難安全支援性能を主として有する消防の用に供する設備等は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等とする。</p> <p>〔表 同上〕</p> <p>2 福祉施設等において、避難安全支援性能を主として有する通常用いられる消防用設備等に代えて用いることができる必要とされる避難安全支援性能を主として有する消防の用に供する設備等は、次の表の上欄に掲げる特定共同住宅等の種類及び同表中欄に掲げる通常用いられる消防設備等の区分に応じ、同表下欄に掲げる必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等とする。</p> <p>〔表 同上〕</p> <p>〔3・4 同上〕</p> <p>5 住戸、共用室及び管理人室（福祉施設等にあるものを除く。）に共同住宅用スプリンクラー設備を前条第三項第二号に定める技術上の基準に従い、又は当該技術上の基準の例により設置したときに限り、当該設備の有効範囲内の部分について、共同住宅用自動火災報知設備又は住戸用自動火災報知設備を設置しないことができる。</p>
---	--

○ 特定小規模施設における必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等に関する省令（平成二十年総務省令第百五十六号）

改正後	改正前
<p>(用語の定義) 第二条 「略」 一 「略」 「イ・ロ 略」 ハ ロに掲げる防火対象物以外の令別表第一(イ)項イに掲げる防火対象物（同表(五)項イ及びロに掲げる用途以外の用途に供される部分が存せず、かつ、(五)項イに掲げる用途に供される部分の床面積が三百平方メートル未満のものに限る。）のうち、延べ面積が三百平方メートル以上五百平方メートル未満のもの 「二 略」 第三条 「略」 2 「略」 一 「略」 二 「略」 「イ・ロ 略」 ハ 階段及び傾斜路、廊下及び通路並びにエレベーターの昇降路、リネンシュート及びパイプダクトその他これらに類するもの（第二条第一号イ(1)、ロ(1)及びハに掲げる防火対象物の内部に設置されている場合に限る。） 「三 略」 「3 略」</p>	<p>(用語の定義) 第二条 「同上」 一 「同上」 「イ・ロ 同上」 「新設」 「二 同上」 第三条 「同上」 2 「同上」 一 「同上」 二 「同上」 「イ・ロ 同上」 ハ 階段及び傾斜路、廊下及び通路並びにエレベーターの昇降路、リネンシュート及びパイプダクトその他これらに類するもの（第二条第一号イ(1)及びロ(1)に掲げる防火対象物の内部に設置されている場合に限る。） 「三 同上」 「3 同上」</p>

○ 非常警報設備の基準（昭和四十八年消防庁告示第六号）の一部を改正する件 新旧対照表
 ○ 非常警報設備の基準（昭和四十八年消防庁告示第六号）

改正後	改正前
<p>第三 [略]</p> <p>一 [略]</p> <p>(一) [略]</p> <p>(四) [略]</p> <p>(五) [略]</p> <p>「イ」ハ 略</p> <p>ニ [略]</p> <p>(イ) [略]</p> <p>(ロ) 接点の材質は、次の(1)から(5)までのいずれか又はこれと同等以上の性能を有する材料を用い、外部負荷と兼用しないこと。</p> <p>(1) 金及び銀の合金</p> <p>(2) 金、銀及び白金の合金</p> <p>(3) 白金、金、パラジウム、銀パラジウム合金又はロジウム</p> <p>(4) ○・三五ニユートン以上の接点圧力となる接点にあつては、銀、銀貼り、銀めつき又は銀酸化カドミウム</p> <p>(5) (1)から(3)までに掲げるもののいずれかの拡散、貼り、クラッド又はめつき</p> <p>「ホ」ト 略</p> <p>「二・三」略</p> <p>四 非常ベル及び自動式サイレンの表示灯の材料は、不燃性又は難燃性であること。</p> <p>「削る」</p> <p>「削る」</p> <p>「削る」</p> <p>「五」略</p>	<p>第三 [同上]</p> <p>一 [同上]</p> <p>(一) [同上]</p> <p>(四) [同上]</p> <p>(五) [略]</p> <p>「イ」ハ 略</p> <p>ニ [略]</p> <p>(イ) [略]</p> <p>(ロ) 接点は、J I S C 二五〇九（通信機器用接点材料）の三種又はこれと同等以上の性能を有する材料を用い、外部負荷と兼用しないこと。</p> <p>「新設」</p> <p>「ホ」ト 同上</p> <p>「二・三」 同上</p> <p>四 非常ベル及び自動式サイレンの表示灯の構造及び性能は、次に定めるところによる。</p> <p>(一) 材料は、不燃性又は難燃性であること。</p> <p>(二) 灯火部分の大きさは、前面投影面積が二十八平方センチメートル以上で、かつ、側面投影面積が前面投影面積の四分の一以上であること。</p> <p>(三) 形状は、円形であること。</p> <p>「五」 同上</p>

昭和五十年消防庁告示第十四号（消防用設備等の点検の基準及び消防用設備等点検結果報告書に添付する点検票の様式）の一部を改正する件 新旧対照表
 ○ 昭和五十年消防庁告示第十四号（消防用設備等の点検の基準及び消防用設備等点検結果報告書に添付する点検票の様式）

改正後	改正前
<p>別表第24 [略]</p> <p>1 機器点検</p> <p>次の事項について確認すること。</p> <p>〔1〕～〔4〕 略]</p> <p>⑤ 運転性能</p> <p><u>無負荷運転を実施し、次に掲げる項目について確認すること。</u></p> <p>ア 運転状況</p> <p><u>漏油、異臭、不規則音、異常な振動等がなく、運転が正常であること。</u></p> <p>イ 換気</p> <p><u>給気及び排気の状態が適正であること。</u></p> <p>〔16〕～〔18〕 略]</p> <p>2 総合点検</p> <p>次の事項について確認すること。</p> <p>〔1〕・〔2〕 略]</p> <p>③ 自家発電装置（原動機と発電機を連結したものをいう。）</p> <p><u>原動機と発電機の接続部の状態が適正であること。</u></p> <p>〔4〕 [略]</p> <p>⑤ [略]</p> <p>⑥ 運転性能</p> <p><u>ガスタービンを原動力とする自家発電設備以外のものについて、次のいずれかにより確認すること。</u></p> <p><u>ただし、製造年から6年を経過していないもの又はこの点検を実施してから6年を経過していないものであって、運転性能の維持に係る予防的な保全策が講じられている場合を除く。</u></p> <p>一 負荷運転</p> <p><u>負荷運転を実施し、漏油、異臭、不規則音、異常な振動、発熱等がなく、運転が正常であることを確認すること。</u></p> <p>イ 内部観察等</p> <p><u>機器内部の観察、潤滑油や冷却水の成分分析等を実施し、腐食、劣化等がないことを確認すること。</u></p> <p>〔7〕 [略]</p> <p>ア 運転切替性能（電力を常時供給する自家発電設備に限る。）</p> <p>[略]</p>	<p>別表第24 [同左]</p> <p>1 機器点検</p> <p>次の事項について確認すること。</p> <p>〔1〕～〔4〕 同左]</p> <p>⑤ 運転性能</p> <p><u>漏油、異臭、不規則音、異常な振動等がなく、運転が正常であること。</u></p> <p>[新設]</p> <p>〔16〕～〔18〕 同左]</p> <p>2 総合点検</p> <p>次の事項について確認すること。</p> <p>〔1〕・〔2〕 同左]</p> <p>[新設]</p> <p>② [同左]</p> <p>④ [同左]</p> <p>⑤ 負荷運転</p> <p><u>ガスタービンを原動力とする自家発電設備以外のものについて、次のいずれかにより確認すること。</u></p> <p><u>ただし、製造年から6年を経過していないもの又はこの点検を実施してから6年を経過していないものであって、運転性能の維持に係る予防的な保全策が講じられている場合を除く。</u></p> <p>一 負荷運転</p> <p><u>負荷運転を実施し、漏油、異臭、不規則音、異常な振動、発熱等がなく、運転が正常であることを確認すること。</u></p> <p>イ 換気</p> <p><u>給気及び排気の状態が適正であること。</u></p> <p>〔6〕 [同左]</p> <p>ア 運転切替性能</p> <p>[同左]</p>

【イ・ウ 略】

【イ・ウ 同左】

別記様式第24

(その1)

非常電源（自家発電設備）点検票（設備名					防 火	
					管理 者	
					立 会 者	
名 称	⑩					
所 在	⑪					
点検種別	機器・総合	点検年月日	年 月 日	年 月 日		
点検者	資格 番号	点検者 氏名	点検者 所属会社	社名	TEL	
点 検 名	原動機 型式等	製造者名		発電機 型式等		
点 検 項 目 機 器 点 検 種別・容量等の内容 判定 結果 不良内容 措置内容						
周 囲 の 状 況	設置 区 画	等 類	キユービジュアル式 キユービジュアル式以外			
設 置 の 浸 透	水 の 浸 透	気 質	自然	機械		
状 換 換	照 明	標 識				
表 示						
原 動 機 ・ 発 電 機	種類：	/	kW			
自家発電装置	冷却装置	ラジエータ、配管等				
潤滑油	冷却装置	冷却ファン				
その他の付属機器類						
空始動用蓄電池設備						
始動用空気設備	始圧	外形				
始動用潤滑油	空気	だめ	MPa	ℓ		
始動用燃料	潤滑油	種類				

- 備考
- この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 - 種別・容量等の内容は、該当するものについて記入すること。
 - 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 - 選択のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 - 措置内容欄には、点検の際検査した内容を記入すること。
 - 票中央印のあるものは、非常電源（蓄電池設備）点検票を添付すること。

別記様式第24

(その1)

非常電源（自家発電設備）点検票（設備名					防 火	
					管理 者	
					立 会 者	
名 称	⑩					
所 在	⑪					
点検種別	機器・総合	点検年月日	年 月 日	年 月 日		
点検者	資格 番号	点検者 氏名	点検者 所属会社	社名	TEL	
点 検 名	原動機 型式等	製造者名		発電機 型式等		
点 検 項 目 機 器 点 検 種別・容量等の内容 判定 結果 不良内容 措置内容						
周 囲 の 状 況	設置 区 画	等 類	キユービジュアル式 キユービジュアル式以外			
設 置 の 浸 透	水 の 浸 透	気 質	自然	機械		
状 換 換	照 明	標 識				
表 示						
原 動 機 ・ 発 電 機	種類：	/	kW			
自家発電装置	冷却装置	ラジエータ、配管等				
潤滑油	冷却装置	冷却ファン				
その他の付属機器類						
空始動用蓄電池設備						
始動用空気設備	始圧	外形				
始動用潤滑油	空気	だめ	MPa	ℓ		
始動用燃料	潤滑油	種類				

- 備考
- この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 - 種別・容量等の内容は、該当するものについて記入すること。
 - 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 - 選択のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 - 措置内容欄には、点検の際検査した内容を記入すること。
 - 票中央印のあるものは、非常電源（蓄電池設備）点検票を添付すること。

別記様式第24

非常電源（自家発電設備）（その2）

周 圍 の 状 況				
制 造 電 機 盤				
自 動 始 動 盤				
御 補 機 盤				
電 源 表 示 灯				
表 示 灯				
開 閉 器 ・ 遮 断 器				
ヒ ュ ー ツ 類	A			
電 機 器				
保 護 装 置				
計 器 類				
燃 料 容 器 等	外 形	種 類		
冷 却 水 外 形				
冷 却 水 本 形				
排 気 筒	周 圍 の 状 況			
	外 形			
	貫 通 部			
配 管				
結 線 接 地				
始 動 性 能				
運 転 性 能	運 転 状 況			
停 止 性 能	手 動 停 止			
	自 動 停 止			
予 備 品 等				

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
- 2 種別・容量等などの内容欄は、該当するものについて記入すること。
- 3 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
- 4 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
- 5 判定内容欄には、点検の結果記入した内容を記入すること。
- 6 表中空白のあるものは、非常電源（蓄電池設備）点検票を添付すること。

別記様式第24

非常電源（自家発電設備）（その2）

周 圍 の 状 況				
制 造 電 機 盤				
自 動 始 動 盤				
御 補 機 盤				
電 源 表 示 灯				
表 示 灯				
開 閉 器 ・ 遮 断 器				
ヒ ュ ー ツ 類	A			
電 機 器				
保 護 装 置				
計 器 類				
燃 料 容 器 等	外 形	種 類		
冷 却 水 外 形				
冷 却 水 本 形				
排 気 筒	周 圍 の 状 況			
	外 形			
	貫 通 部			
配 管				
結 線 接 地				
始 動 性 能				
運 転 性 能	運 転 状 況			
停 止 性 能	手 動 停 止			
	自 動 停 止			
予 備 品 等				
接 地 抵 抗 種 別	種 別	点 検		

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
- 2 種別・容量等などの内容欄は、該当するものについて記入すること。
- 3 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
- 4 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
- 5 判定内容欄には、点検の結果記入した内容を記入すること。
- 6 表中空白のあるものは、非常電源（蓄電池設備）点検票を添付すること。

別記様式第24

非常電源（自家発電設備）（その3）

接 地 抵 抗		種 合 点 備	
総 線	抵 抗	種	点
自家発電設備		Ω	
※始動用蓄電池設備			
始動用空気圧縮設備	ℓ		
始動補助装置			
保護装置			
負荷運転等		kw	
運転切替性能			
※蓄電池切替性能			
※蓄電池切替性能			
電気主任技術者 氏名及び番号			
最終更新年月 (年 月)			
備			
考			
機器名	型 式	校正年月日	製造者名
型 式			
製造者名			
機器名	型 式	校正年月日	製造者名
型 式			
製造者名			

- 備考
- この用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
 - 種別・容量等などの内容欄は、該当するものについて記入すること。
 - 測定値は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 - 測定値のある欄は、該当事項に○印を付すること。
 - 措置内容欄には、直後の維持重した内容を記入すること。
 - 票中※印のあるものは、非常電源（蓄電池設備）点検票を添付すること。
 - 票中※印のあるものは、当該点検項目の最終検査年月を備考欄に記入し、運転性能の維持に際する予防的な保全措置を講じている場合は、当該措置を講じていることを示す事項を添付すること。

別記様式第24

非常電源（自家発電設備）（その3）

種 線 抵 抗		種 合 点 備	
種	線	種	点
※始動用蓄電池設備		Ω	
始動用空気圧縮設備	ℓ		
始動補助装置			
保護装置			
運転状況			
負荷運転		気 最終室温	℃
運転切替性能			
※蓄電池切替性能			
※蓄電池切替性能			
電気主任技術者 氏名及び資格			
備			
考			
機器名	型 式	校正年月日	製造者名
型 式			
製造者名			
機器名	型 式	校正年月日	製造者名
型 式			
製造者名			

- 備考
- この用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
 - 種別・容量等などの内容欄は、該当するものについて記入すること。
 - 測定値は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 - 測定値のある欄は、該当事項に○印を付すること。
 - 措置内容欄には、直後の維持重した内容を記入すること。
 - 票中※印のあるものは、非常電源（蓄電池設備）点検票を添付すること。



改正後	改正前
<p>第二 [略]</p> <p>一 [略]</p> <p>(一)～(五) 略</p> <p>(六) 特定小規模施設用自動火災報知設備（すべての感知器が無線によって火災信号又は火災情報信号を発信するものであって、特定小規模施設用自動火災報知設備の設置及び維持に關する技術上の基準（平成二十年消防庁告示第二十五号。以下「告示」という。）第二第五号ただし書の規定により受信機を設置しないもの（告示第二二号の規定に基づき、中継器を設置するものを除く。）を除く。第三第一号(六)において同じ。）</p> <p>[七]・(八) 略</p> <p>二 特殊消防用設備等 消防法施行規則（昭和三十六年自治省令第六号。以下「規則」という。）第三十一条の三の二の規定に基づき設備等設置維持計画に記載する事項から判断して、令第三十六条の二第二項各号に掲げる消防用設備等に類すると認められるもの</p> <p>第三 [略]</p> <p>一 [略]</p> <p>(一)～(八) 略</p> <p>二 特殊消防用設備等 規則第三十一条の三の二の規定に基づき設備等設置維持計画に記載する事項から判断して、令第三十六条の二第二項各号に掲げる消防用設備等に類すると認められるもの</p> <p>[削る]</p> <p>[削る]</p> <p>[削る]</p>	<p>第二 [同上]</p> <p>一 [同上]</p> <p>(一)～(五) 同上</p> <p>(六) 特定小規模施設用自動火災報知設備（すべての感知器が無線によって火災信号又は火災情報信号を発信するものであって、特定小規模施設用自動火災報知設備の設置及び維持に關する技術上の基準（平成二十年消防庁告示第二十五号）第二第五号ただし書の規定により受信機を設置しないものを除く。第三第一号(六)において同じ。）</p> <p>[七]・(八) 同上</p> <p>二 特殊消防用設備等 次の(一)から(三)に掲げるもの</p> <p>(一) ドデカフルオローニ―メチルペンタン―三―オンを消火剤とする消火設備</p> <p>(二) 加圧防煙設備</p> <p>(三) 火災による室内温度上昇速度を感知する感知器を用いた火災報知設備</p> <p>第三 [同上]</p> <p>一 [同上]</p> <p>(一)～(八) 同上</p> <p>二 特殊消防用設備等 次の(一)から(三)に掲げるもの</p> <p>(一) ドデカフルオローニ―メチルペンタン―三―オンを消火剤とする消火設備</p> <p>(二) 加圧防煙設備</p> <p>(三) 火災による室内温度上昇速度を感知する感知器を用いた火災報知設備</p>